

## 根室にてムセンスゲ *Carex livida* を見出す

札幌市 佐藤 ひろみ

ムセンスゲは国内では大雪山、知床、猿払湿原の3カ所に分布があると記載されています(勝山 2015、すげの会 2018)。国外では千島、カムチャツカ、朝鮮北部、ヨーロッパ北部、北アメリカ北部など北極圏を取り巻くように分布し、日本では北海道の寒い地域に点在することから氷河期の遺存種といわれています(勝山 2015)。また環境省の絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、北海道レッドデータブック 2001 では希少種(R)に指定されており分布地点の少ない、とても貴重な種といえそうです。この度、根室の湿原でムセンスゲを発見しました。諸処の文献を調べたところ根室市ではこれまでに記載がなく今回が初記録となるので、この項をまとめ報告します。

ムセンスゲはカヤツリグサ科ヤチスゲ節に属し、葉は粉緑色、幅 2-3mm。有花茎は高さ 10-20cm、平滑。頂小穂は雄性、長さ 1-1.5cm。側小穂は雌性、長さ 1-2cm、直立、雌鱗片は褐色を帯び、鋭頭、果胞と同長か少し長く、果胞は長さ 3-4mm、微細な乳頭状突起を密布して灰青色、嘴はほとんどなく口部は全縁、柱頭は 3 岐とあります(星野・正木 2011, 勝山 2015)。ヤチスゲ節のうち北海道に分布

するものはヤチスゲ、イトナルコスゲ、ムセンスゲでいずれも葉の色が粉緑色をしており、このうちヤチスゲ、イトナルコスゲの側小穂は長い柄があって垂れ下がり、ムセンスゲの側小穂は直立するのが特徴です(勝山 2015)。スゲは似ていて識別が難しいとよく言われますが、この特徴的な色や形を覚えておけばムセンスゲはすぐわかるのではないかと思います。



図1 ムセンスゲのある窪み